

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

水球競技戦評

期日：令和7年8月19日（火）
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

14

帽子の色 白

金沢市立工業

17

6 - 3
6 - 1
4 - 1
1 - 5
PSO

帽子の色 青

四日市中央工業

10

審判1：深谷周平
審判2：大坂淳

戦評

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）は、8月19日（火）、山口きらら博記念公園水泳プールにてゲーム番号14、金沢市立工業高等学校（白帽）と四日市中央工業高等学校（青帽）の一戦が行われた。北信越王者として今大会の優勝候補に名を連ねる金沢市立工業と、全国上位に名を刻む四日市中央工業との対戦は、会場を大いに沸かせた。

第1ピリオドから両校の意地が激しくぶつかり合った。金沢市立工業は⑧前田侑が巧みなループシュートで試合を動かすと、②松野がペナルティ誘発やミドルシュートで連続得点を重ね、主導権を握る。さらに⑤中村や⑦前田洸も加点し、攻撃の厚みを見せつけた。一方の四日市中央工業も反撃を忘れない。⑥小坂や②山内が力強いシュートを沈め、⑤伊藤の退水獲得からゴールを決めるなど、持ち味の粘り強さを発揮した。初回は6-3と金沢市立工業が優位に立ったものの、四日市中央工業の勝負強さが光る立ち上がりとなった。

第2ピリオドでは金沢市立工業が圧巻の集中力をを見せた。タイムアウト直後、⑧前田侑が冷静にゴールを決めると、②松野が立て続けに相手守備をかわして得点を挙げる。さらに⑤中村がキーパーの飛び出しを見逃さず追加点、⑥水浦も力強い突破でゴールを揺らし、華麗なパスワークと個々の決定力が噛み合った。四日市中央工業も⑦山本が二人のマークを振り切って意地の一撃を決めたが、このピリオドは6-1と金沢が大きく突き放し、前半を12-4で折り返した。

それでも四日市中央工業の闘志は失われなかった。第3ピリオド、⑪鈴木が鋭いミドルを叩き込み、主将④山崎も退水を誘発してゴールへ迫る。GK①道上のセービングも光り、何度も相手の決定機を阻止した。しかし金沢市立工業の勢いはなお衰えず、④角尾の正確なフリースローや、⑧前田侑の連続得点が試合の流れを掌握。特に⑧前田侑はこのピリオドだけで3得点を記録し、攻撃の軸として圧倒的な存在感を放った。

迎えた最終ピリオド、四日市中央工業が底力をを見せつける。⑤伊藤がゴール前で粘り強く押し込み、④山崎は⑩岩本との連携から鮮やかなループシュートを決め、観客を沸かせた。⑥小坂も体を張ったプレーで得点を積み重ね、退水を誘発して③森下が加点するなど、組織力と個人技を融合させた見事な反撃をみせた。金沢市立工業も⑨徳田がループシュートを決めて応戦したが、このピリオドは四日市中央工業が5-1と圧倒し、最後まで勝負を諦めない姿勢を示した。

試合は最終的に17-10で金沢市立工業高校が勝利を収めた。勝者となった金沢市立工業は、②松野の世代を代表する力強いリーダーシップと、⑧前田侑の果敢な突破力を中心に、試合を通して攻守に安定感を見せた。組織的なパス回しと的確なシュート判断は、優勝候補に相応しい完成度の高さを物語っていた。

一方の四日市中央工業も最後まで気迫を失わず、④山崎のスピードを生かした攻撃、⑥小坂や⑦山本の力強いシュート、GK①道上のファインセーブなど、随所に全国上位校の意地を示した。特に第4ピリオドの粘りは観客の心を強く打ち、敗れてもなお称賛される内容であった。

強豪同士の激突は、スコア以上に互いの持ち味を存分に引き出し合った熱戦となった。金沢市立工業の完成度の高い試合運びと、四日市中央工業の最後まで諦めない闘志。どちらのチームも高校水球の魅力を余すところなく示し、会場を大きな拍手で包み込む一戦となった。